

H29年 6月11日(日)

NPO 法人アスペの会石川・金沢エルデの会共催セミナー

「不登校を通して親が見えたこと」

* 当日の進行のあらましとアンケートのまとめ

大井佳子先生（アスペ、エルデの会のアドバイザー、北陸学院大学教授）のコーディネートで進行しました。不登校、行き渋りの子どもを持つ両会の会員5名と大井先生のテーブルに参加者が囲むように座り、以下について会員の話を中心に議論を進めていきました。

- ① 不登校の現在の状況、いつごろから不登校になったのかも含めて。
- ② 不登校のきっかけについて。
- ③ 行かなかった期間の意味について。
- ④ 子どもが家にいた時に何を学んだと思うか？また、子どもにとって学校での学びは何を期待するか？今現在の様子について。

フロアからの意見も交えながら、不登校に直面をしたことで、学校に行く意味、子どもにとっての「学び」とは何かを考える機会になりました。

* アンケートのまとめ（参加者数37名 回収数29）

保護者

・現在不登校で悩んでいる方の話、成長した子を持った先輩の方の話の両方を聞いて良かったです。やはり不登校になっている今の状態が、将来どんな風につながるのか不安はぬぐえないのですが、今の子の気持ちを大切に、今のかかわりを大切にしたいと思いました。

・自分の子どもも行き渋りがあります。そのため、学校の準備もしません。学校には配慮してもらっています。私はあまり学校には特に何かをしてほしいとは伝えてなく、学校に任せています(今のところ)。本人に合った配慮がなされないと不登校になること、本人のつらさは後から気づくこと、何がきっかけで不登校になるかはわからないんだと思いました。私が学校に行かせたい理由はニートになってほしくないためです(笑)。

・今日は貴重な話を聞かせて頂いてありがとうございました。我が子は小5ですが、周囲との違和感を感じつつ登校しております。そのうち不登校の日も来るだろうと思ってはいるので、とても参考になりました。今は、子ども自身が先生と自分で交渉してクラスの子と仲良くできる宣言を皆の前でして、今はなじめているようです。

・私自身、感度の高 HSP (Highly sensitive person : 高度な感覚処理感受性) で子どもたちに遺伝しており、常に苦しさやつらさを感じているが、HSP そのものが日本に入ってきたばかりで全く理解されない。発達障害との共通している部分も多く、もっと HSP に関して理解してほしいと思う。

・子どものタイプのいずれ不登校になる可能性が高いと思っているので、話してくださる保護者の方々の話はとても共感できることが多かったです。学校へ合理的配慮をどこまで求めているのか、仮に学校が合理的配慮をしていただいても、将来社会に出た時のことを考えると、どのタイミングで配慮を解いていったらよいのか、とても難しいと思いました。

・こういう会に来るとホッとします。学校にいます（普段は）自分が異端に感じてしまいしんどいのですが、ここではお話すべてがすんなり入ってきます。もっといろんな話を聞かせてもらったり、自分で話せたりできたら、、、。小グループでいろいろ話せるカフェみたいな企画が、時々あったらいいなと思います。発達障害者支援、もう最近この言葉に疑問を感じてしまいます。当事者が「普通」に合わせるための努力、その対策なんてもうやめませんか？と。それよりみんな (everyone) が居心地よくなれる社会にしたいです。「普通」の人たちも同じように努力してほしいです。会のテーマ、学校とは何か？行かないといけないのか？までは、なかなか意見が届きにくかったかも、、、。やっぱり現状のしんどさが大きいから、、、？ちょっと難しかったです。会としては学校を否定したかった？最後のアスぺの会の代表の方の「がんばりましょう」が一番心に響きました。

・幸せな親子になりたいです。

・もう少し、保護者や教育関係者に実りのある内容にして欲しい。答えを求めるのではなく、いろいろな視点を持てる親になるためにはこのようなセミナーでもっと具体的な話や討論が必要なのでは？多くの保護者や教育関係者が理解を深めることこそが本人の過ごしやすさにつながっていくと思う。

・色々な話が聞けて良かったです。

・先生が発言者に対して研究者的目線で切り込む(?)ところが他の会では余りないので新鮮でした。将来のことも不安ですが、まずは、現在が大切なのかなと皆さんのお話を聞いていて感じました。

・生々しい話が聞けて大変参考になりました。今後も同様な活動をがんばってください。

・不登校児(小5)を持つ親です。子どもそれぞれ、不登校のタイミング(年齢)、きっかけなど違うんだなあと改めて感じました。家での過ごし方は似たような(ゲーム、スマホ)感じで安心しました(笑)。それぞれ状況や抱える問題は違っても「不登校」という大きな枠組みの中で皆さん戦っているんだな、一人じゃないんだなと気づけたのは良かったです。

・学校に行けない子が安心して過ごせる場があればいいと思いました。

・次男の特性を知っている長男が中1になり思春期になっていることもあり、当事者(次男、小5)に暴言を吐き、止めることが出来ないことが毎日のようにあり、それに激昂した次男が包丁を持ち出して暴れることが続いているのが悩みです。家族の在り方を学びたいなと思っています。

・子どもたちが行き渋りになった時(頃)を思いましてしまった。現実を受け入れるしかない。そのためには親ができることをサポートし続けたいです。

・親の動揺のせいで、家の中が不穏になりました。私の中でいろいろ動いていてもこれは自分のためだと気づきました。ちゃんと子どもの気持ちを見ていなかったということになるべく考えるようにしています。何もない家の方が怖いと思って、一日一日過ごしていきたいと思いました。同じ悩みを持つ方がたくさんいて心強かったです。ありがとうございました。

・通信の学校に行かれたお母さんのお話の、自分の理想、固定概念、当たり前、普通、思い込みを「あきらめる」、押しつけをやめる。日々これらを目標に心掛けていますが、実践できない時もあり、子どもと向き合うのではなく自分と向き合わなければいけないのを改めて実感しました。共感しました！！本人にとっての、本当の意味での支援って何がいいのだろうか？何が良くて、悪くて、、、難しいですね。付度する日々はいつまで続くのでしょうか？今日も勉強になりました。ありがとうございました。

教育、相談機関、医療などの関係者

・不登校で苦しんでいる子、その家族がたくさんいたことを実感させられました。でもこのような場があることで、心強く、相談したり、もやもやを吐き出せたりすることで気持ちが救われると思いました。それでもやはり苦しくてたまらないと思います。教師として自分がしてあげられることはほんのわずかかも知れませんが、子どもの心の居場所になれる働きかけを見つけたいと思いました。（よく怒る怖い先生、、、として有名ですが）。皆さんの「学校の先生の存在」についての発言、励みにも戒めにもなりました。生の声は心に刺さりました。現在特別支援学級を担任していますが、子どもたちの特性等を知りながら接していけるように勉強していきたいと思います。（他の子たちと同じようにしている面があり、それが良いのか悪いのかも知りたいです）今日は貴重なお話が聞けて嬉しかったです。本当にありがとうございました。（小学校教諭）

・いろいろと多くのことを考えさせられる機会となりました。誠にありがとうございました。是非、また貴会のセミナーに参加させてください。（小学校通級教室担当者）

・保護者の生の声が聞けて良かったです。不登校になる子ども達の苦悩、思い、、、など、自分が思っている以上に深く、理解はきっと完全にできないと思いました。本人でないと分からないと思いました。教員として、不登校児達と向き合っていくには「自分の目線（価値）」ではなく彼らの苦悩、思いにできる限り寄り添っていきたくと思いました。その姿勢が彼らの苦悩や思いを少しでも和らげるのではないかと思います。人との関わりで苦しむ子ども達も、結局心の拠りどころになるのは、学校の友達、ゲーム仲間などといった「人」「仲間」なので、心の拠りどころになる人との出会いが苦悩から救ってくれるのではとも思いました。（小学校教諭）

・学校に勤めながら、不登校のお子さんに出会い、学校へ行く意味って何だろうと考えるようになり、この会に参加させてもらいました。わからないなりに、自分なりに答えが見えたかな、と思えました。ありがとうございました。

・前回のセミナーに引き続き、参加させて頂きました。昨年度は、小学校講師として参加させて頂きましたが、その前任校でも登校渋りの児童がいたため、今回のセミナーを聞いて、「ああ、この子もそうだったのかな」と思いながら聞いていました。今後も、今回のセミナーの内容をもとに考えていけたらと思います。（療育機関）

・前半だけの参加でした。後半もぜひ聞きたかったのですが、、、。次回よろしくお願ひします。(医療)

・保護者様方の素直な思ひを聞くことができ、考えさせられる事がとても多かったです。お子様の支援も、ご家族の皆様への支援もどちらも大切だと改めて気づかされました。お子様の視点で、支援していけたらと思ひます。(療育機関)

・相談機関として家族の思ひを聞くことで、改めて、その思ひをしっかり受け止めていこうと思ひました。一人一人が行きやすい社会になってほしいと思ひましたし、そのために私たちができることを一つ一つやっいていこうと思ひました。今日はありがとうございます。

・ご本人にとっての「安心」ということを、ご本人と一緒に探っいていくことが、まわりの社会の人たちの価値なのだと、改めて考えました。(支援センター)

・経験者の方が実際話してくれて、とても役に立った。他にも同じような子供がいて安心した。子供の考え方、親の受け止め方が必要。不登校になって考えさせられる事が多い。本人にわからせるためにはどう親的に関わったらいいのか永遠の悩みです。

・貴重なお話を聞かせて頂いてありがとうございました。

・何事も経験してみないと。心底「わかる」ことはないのかなと思ひました。多数派の社会と折り合いながら、共生していく方法をこれからも考え続っいていきたいと思ひます。ありがとうございます。

以上。

アンケートにお答えくださった皆様、ご協力ありがとうございました。